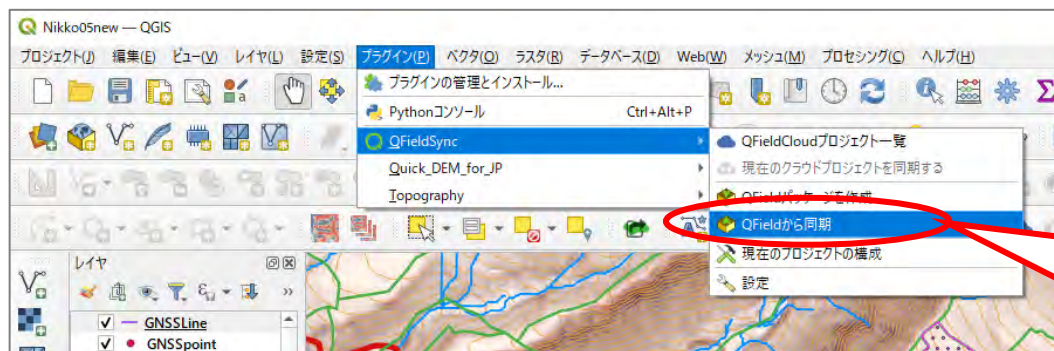
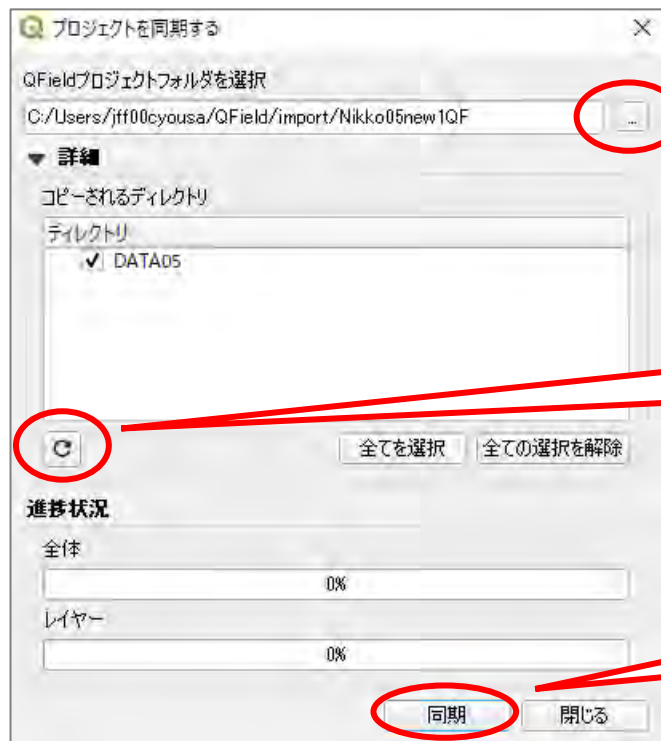


（１－２） USB接続でPCにデータを取り込む方法 ※Androidのみ

端末から取り込んだデータをQGIS上で表示する。



①QGISを起動し<プラグイン>⇒<Qfield Sync>⇒<QFieldから同期>をクリック

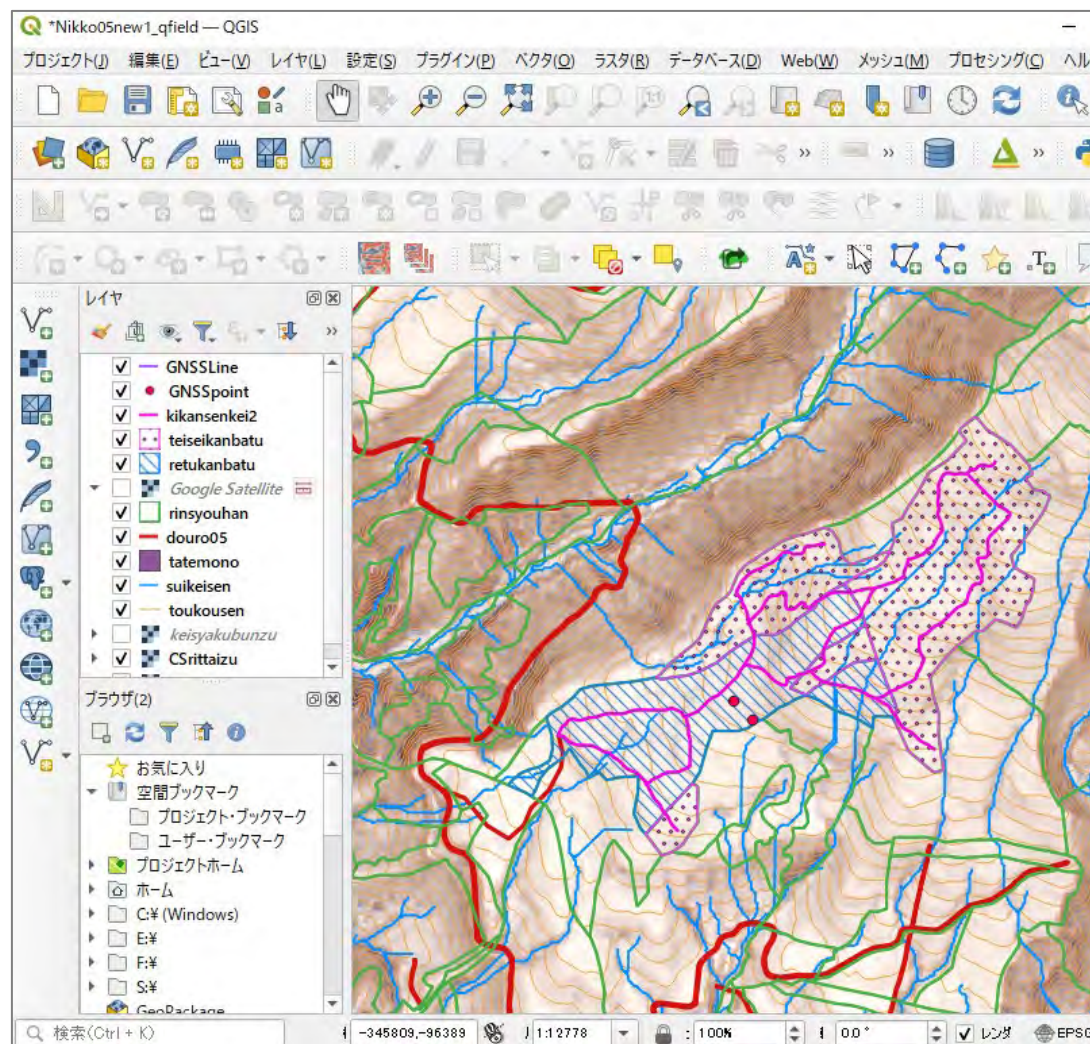


②<...>をクリックし、先ほど端末からコピーしたフォルダを選択

③<C>ボタンをクリック

④同期をクリック

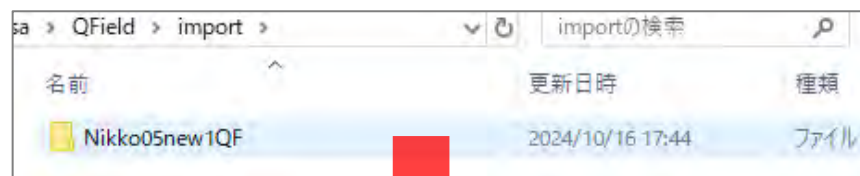
（1－2） USB接続でPCにデータを取り込む方法 ※Androidのみ



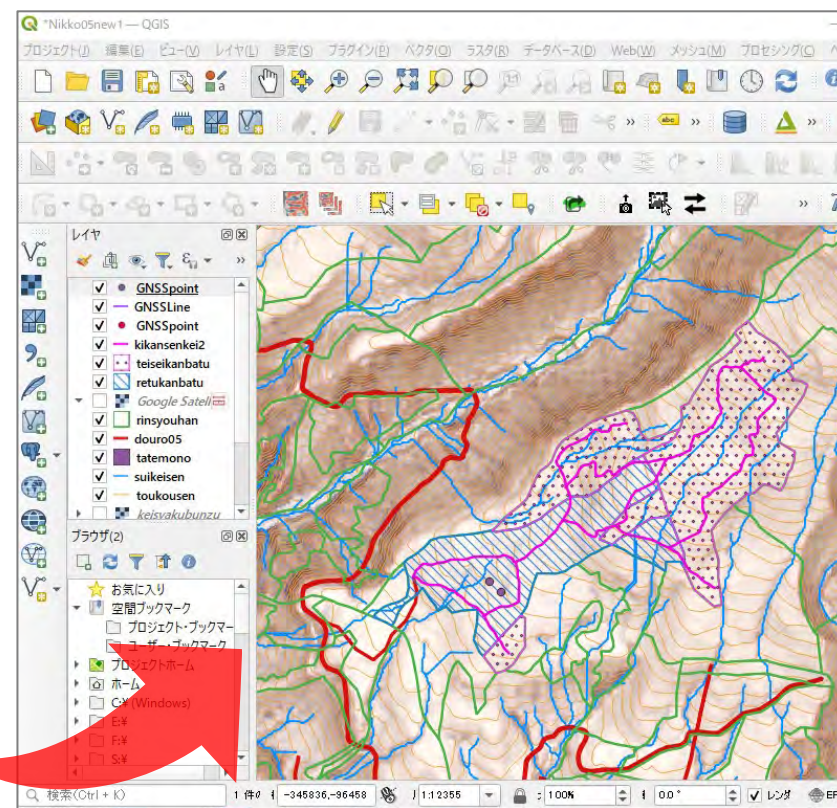
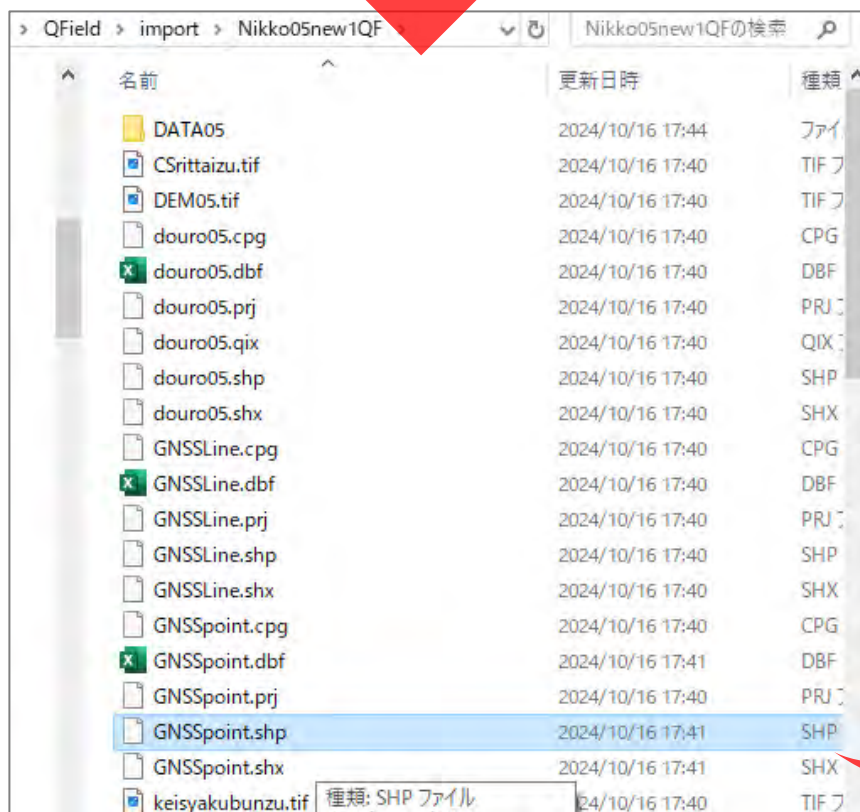
現地計測結果が反映された状態

（参考）ドラッグ＆ドロップでデータをQGISに取り込む方法

PCの<QField>フォルダ⇒<import>フォルダ⇒携帯端末からコピーしたフォルダを開き、
現地で計測したGNSSpointのshpファイルをドラッグ＆ドロップでもQGISに取り込み可能。



※ドラッグ＆ドロップで取り込んだ場合、
計測点の色や大きさをプロパティで調整する
必要がある



（２）現地で計測した点等に正しい属性情報を追加する

取り込んだGNSSポイントにXY座標（正しい位置情報）を追加する必要がある。

①属性情報を追加したいレイヤを右クリック



<編集モード切替>を選択

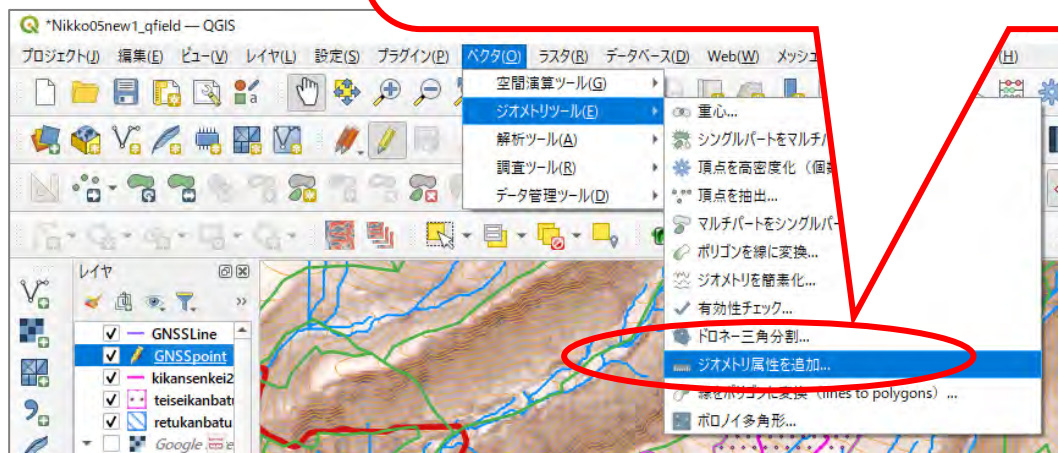
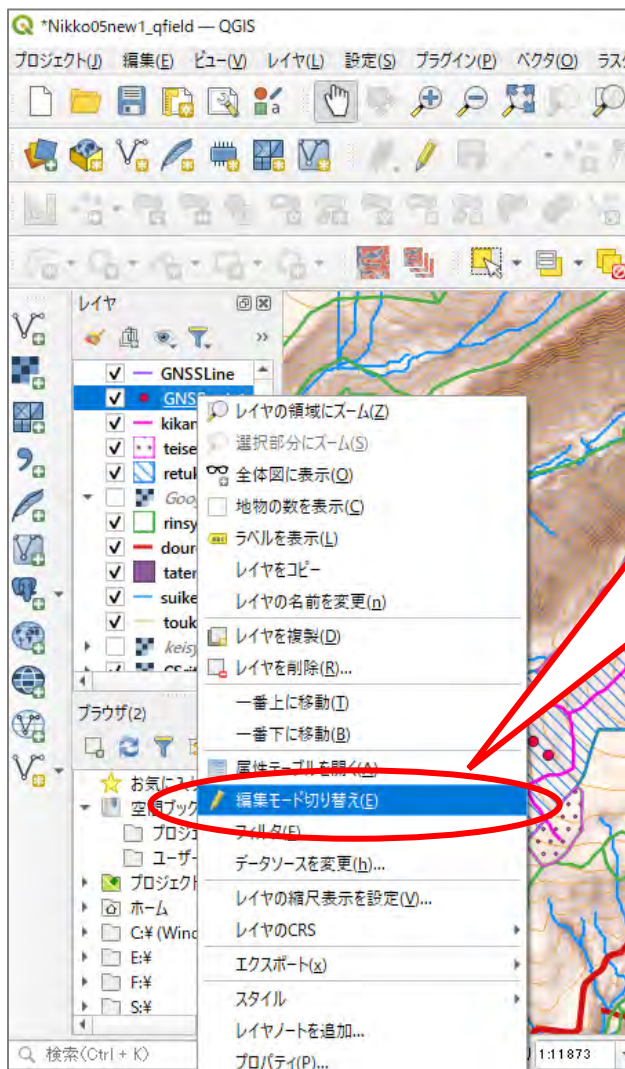
②<ベクタ>タブ



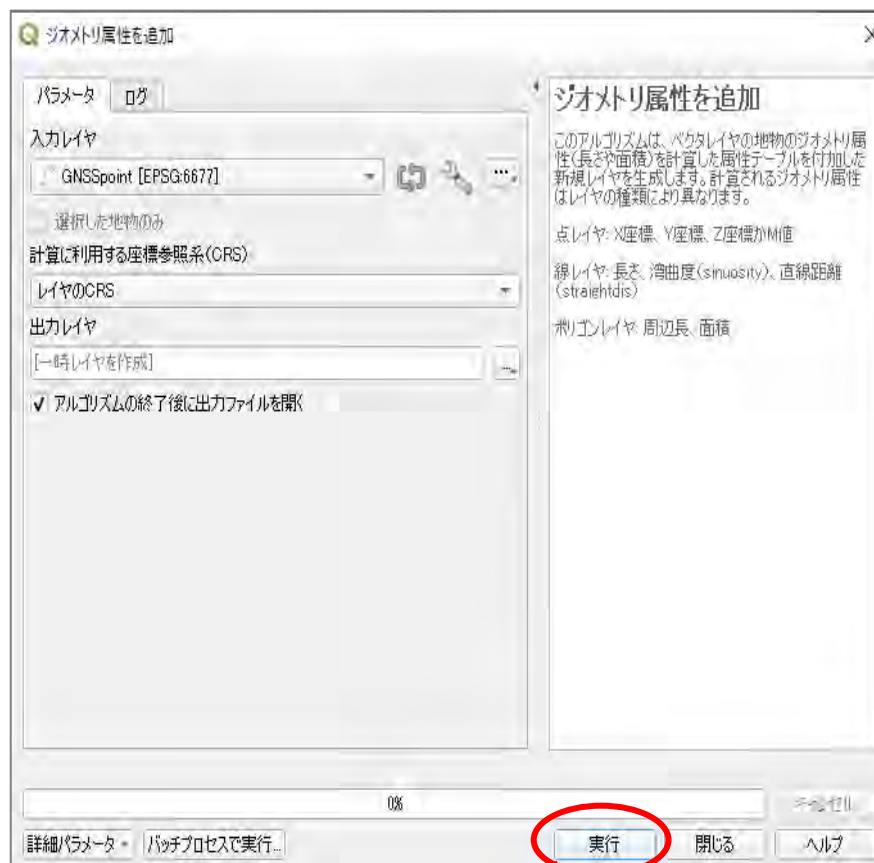
<ジオメトリツール>を選択



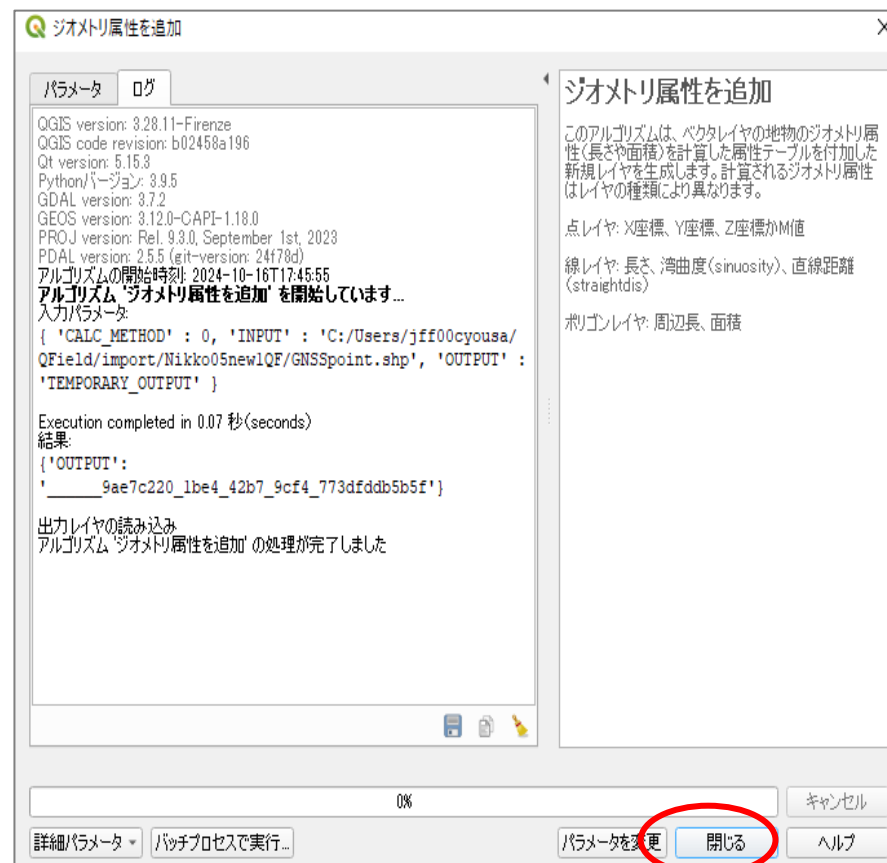
<ジオメトリ属性を追加>をクリック



（２）現地で計測した点等に正しい属性情報を追加する

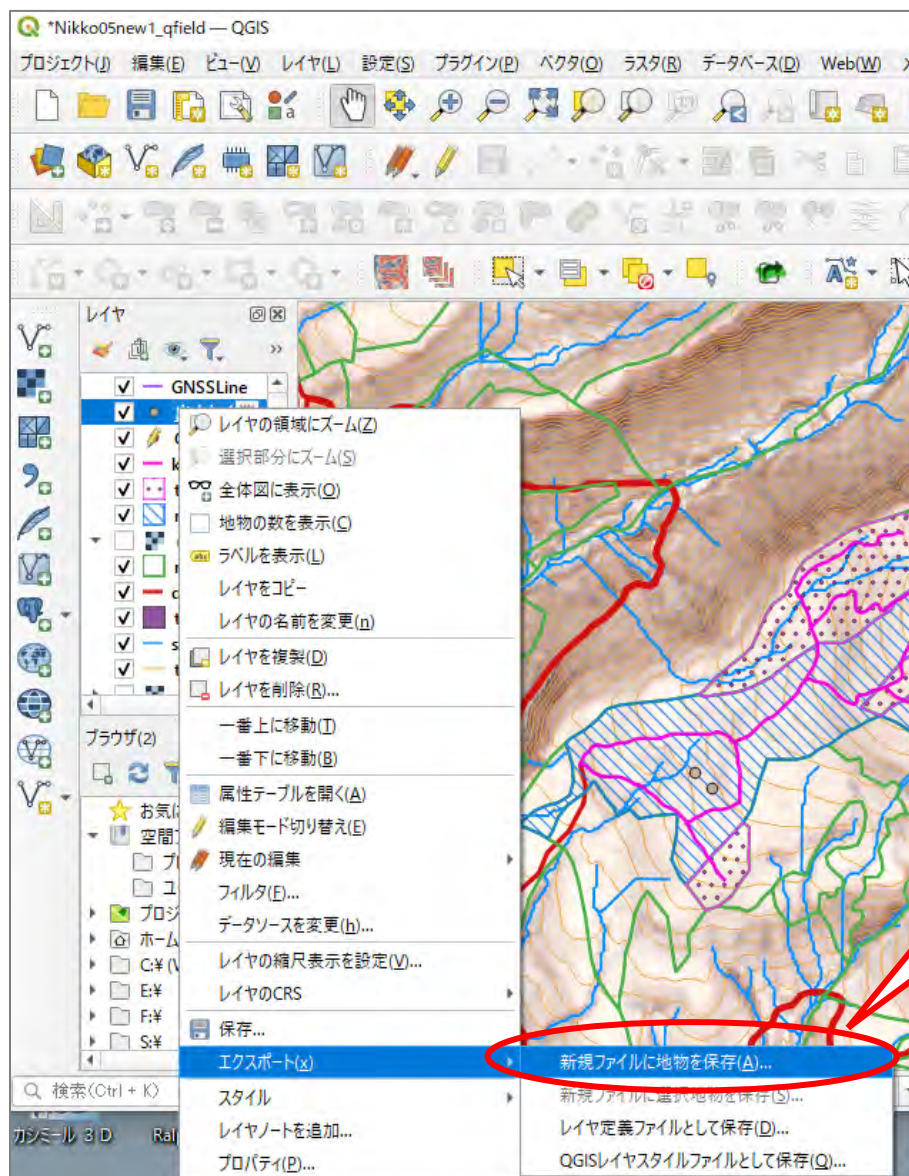


③<実行>をクリック



④<閉じる>をクリック

（２）現地で計測した点等に正しい属性情報を追加する



- ⑤出力レイヤを右クリック
→エクスポート
→新規ファイルに地物を保存

（２）現地で計測した点等に正しい属性情報を追加する

名前をつけてベクタレイヤを保存...

形式: ESRI Shapefile

ファイル名: E:\Users\jiff00cyousa\Desktop\Nikko05new\DATA05\GNSSpoint2.shp

レイヤ名:

座標参照系(CRS): EPSG:6677 - JGD2011 / Japan Plane Rectangular CS IX

文字コード: UTF-8

☐ 選択地物のみ保存

▼ エクスポートするフィールドとエクスポートオプションを選択

名前	エクスポート名	型
☒ id	id	int8
☒ xcoord	xcoord	double
☒ ycoord	ycoord	double

☐ エクスポート名にエイリアスを使う

☒ レイヤメタデータを保持

▼ ジオメトリ

ジオメトリ型: 自動

☐ マルチタイプにする

☒ 保存されたファイルを地図に追加する

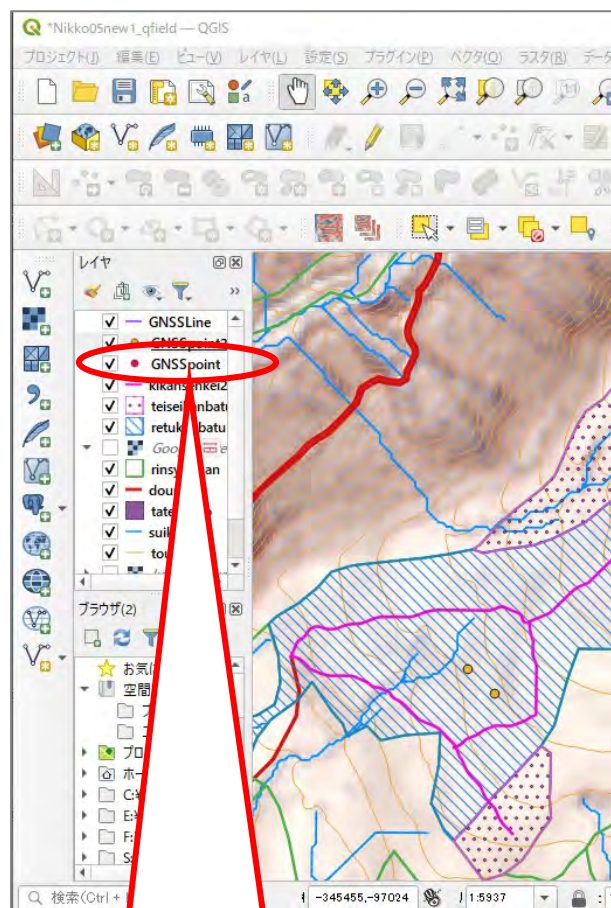
⑥ESRI Shapefileを選択

⑦保存場所とファイル名を設定

⑧座標参照系を確認又は選定

⑨OKをクリック

（２）現地で計測した点等に正しい属性情報を追加する



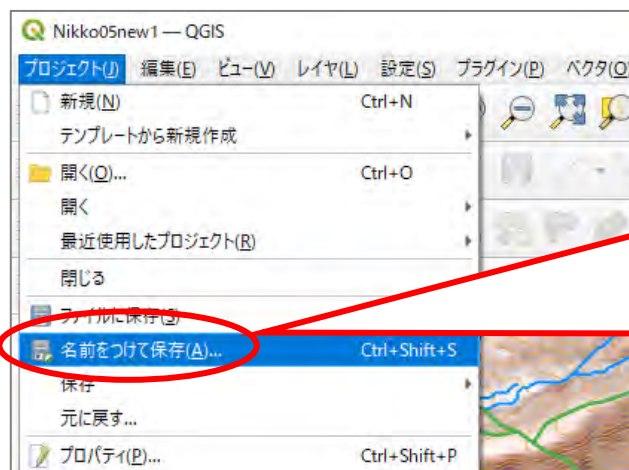
⑩属性情報を追加したレイヤーを右クリック

GNSSpoint2 — 地物数合計: 2, フィルタ: 2, 選択: 0

	id	xcoord	ycoord
1	1	-7594.63415972...	97643.43730362...
2	2	-7559.20821396...	97611.06075258...

⑪属性情報※が反映された点・・・ X座標、Y座標
線・・・ 延長距離
図形・・・ 面積、周囲長

※衛星測位した位置情報は地球楕円体上の3次元座（x,y,z）であり、これを地域の直角平面図に投影することで、地域で使われる地図に合致したx・y座標、距離、面積、周囲長が得られる。



⑩<プロジェクト>タブ

<名前をつけて保存>をクリック

変更結果を保存

（２）現地で計測した点等に正しい属性情報を追加する

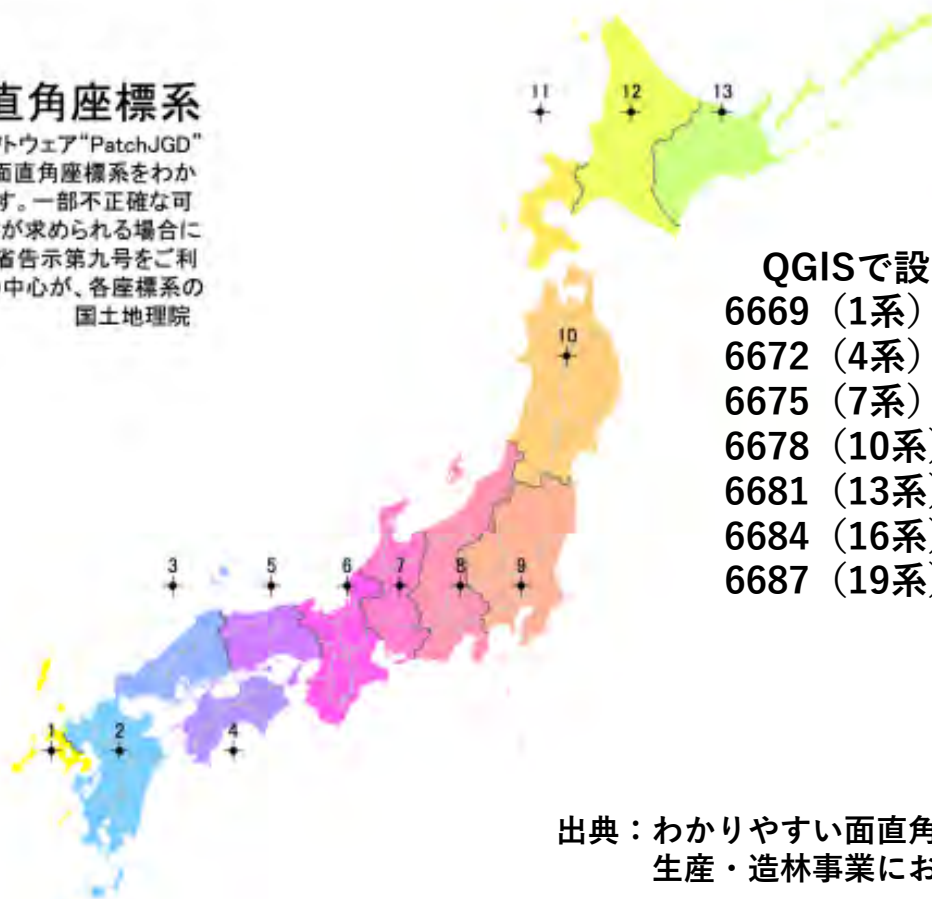
CRS（座標参照系 Coordinate Reference System）とは、地球上の位置を表す座標系のことであり、GIS（地理情報システム）でデータを扱うときにCRSを設定することによって、例えば平面地図に投影された距離や面積を正確に計算することができるようになる。

日本では、平面直角座標系のJGD2011の1系から19系を設定するのが一般的である。

日本の平面直角座標系

この図は、座標補正ソフトウェア“PatchJGD”利用者等のために、平面直角座標系をわかりやすく表現したものです。一部不正確な可能性があります。正確さが求められる場合には、平成14年国土交通省告示第九号をご利用下さい。十字マークの中心が、各座標系の原点を表します。

国土地理院

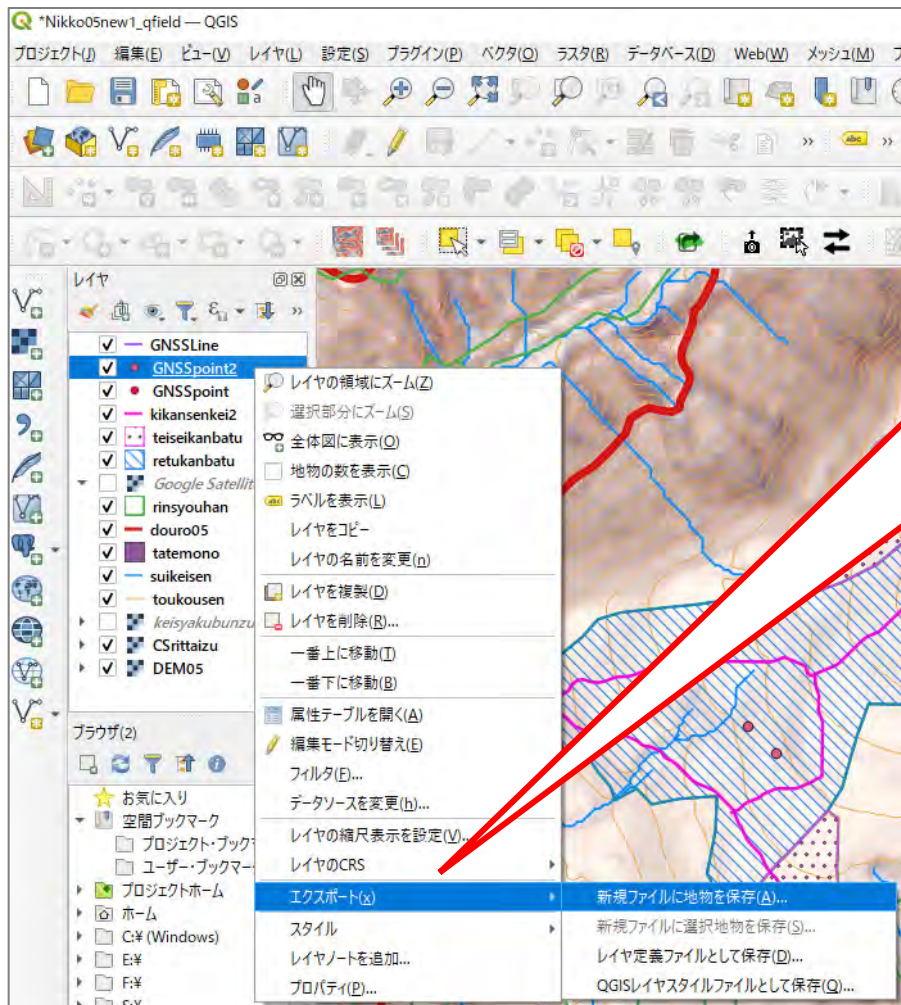


QGISで設定する際には、EPSGコードの
6669（1系）、6670（2系）、6671（3系）、
6672（4系）、6673（5系）、6674（6系）、
6675（7系）、6676（8系）、6677（9系）、
6678（10系）、6679（11系）、6680（12系）、
6681（13系）、6682（14系）、6683（15系）、
6684（16系）、6685（17系）、6686（18系）、
6687（19系）で検索すると設定しやすい。

出典：わかりやすい面直角座標系（国土地理院ホームページ）
生産・造林事業におけるQGISデータセット作成手順書
（令和6年3月 林野庁）

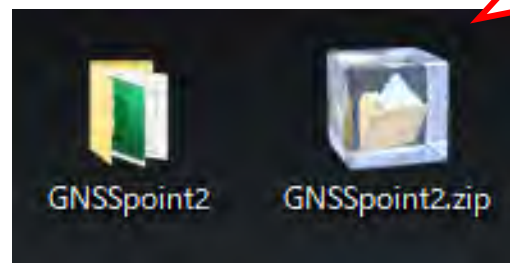
（3）データを送る

計測点や計測線など後から追加したデータを事業関係者に送る場合、そのデータだけをQGISから出力してメールに添付して送ることができる。



①追加データのレイヤを右クリック
⇒エクスポート
⇒新規ファイルに地物を保存

②出力先のフォルダを圧縮して
メールに添付する



※データセット一式を送る場合は大容量
ファイル転送に対応した送付方法を選ぶ

（４）情報セキュリティ対策

データの共有や、成果品としてデータを提出する際には、コンピュータウイルスの感染を防ぐ対策が不可欠である。

- ①データを送る前に必ずウイルスチェックを行う
- ②データの提出方法について情報セキュリティ上の指示がある場合はそれに従い提出する

例】 圧縮フォルダにパスワードを付けるとウイルスチェックができないため、受け手側と相談して対応する等



※QGISデータセット（PC用、携帯端末用）を作成する手順や利用方法は、以下林野庁HPに掲載。

国有林における森林整備

https://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu_rinya/seibi.html

令和5年度国有林活用型生産・造林モデル実証事業

「生産・造林事業におけるQGISデータセット作成手順書」

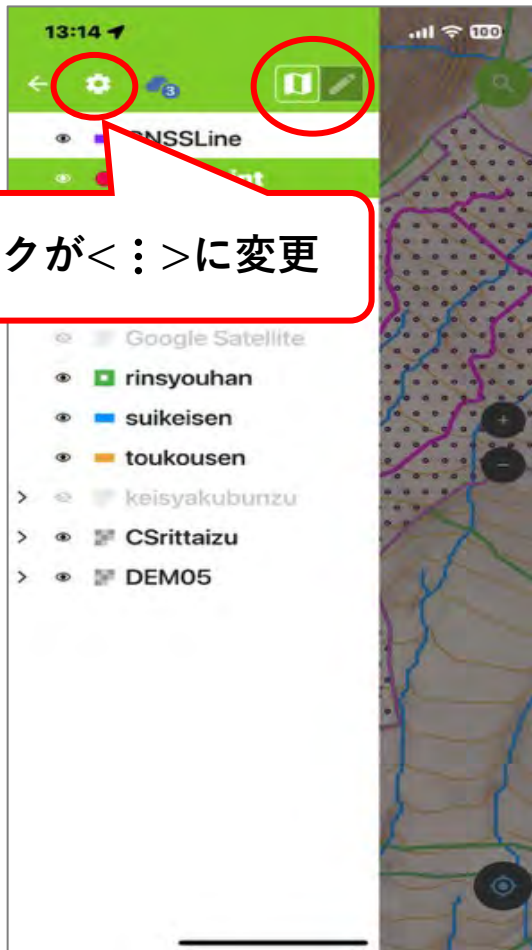
「QGISデータセットの利用の手引き」

（注）引用したQGISダウンロードサイト（日本語版）が令和7年1月現在SSL化（暗号化）証明書の期限切れになっているため、英語版公式ホームページ（<https://www.qgis.org/download/>）を「日本語に翻訳」で使用する。

CS立体図を作成する「CSMap Plugin」が令和6年6月に新たにリリースされ、「CSMapMaker」と「QField Sync」でQGISの新旧バージョンを使い分ける必要があった点は解消されている。

本ガイド利用上の注意（令和7年3月QFieldアップデート）

令和7年3月にQFieldのアップデートが行われ、一部操作ボタンの配置等が変更となった。本ガイドの操作画面は一部を除き更新前の画面を用いており、今後もバージョン更新により、操作画面の一部が変更されることもあるので利用の際には留意すること。



アップデート前の画面



アップデート後の画面

参考文献

令和5年度国有林活用型生産・造林モデル実証調査委託事業

生産・造林事業におけるQGISデータセット作成手順書（令和6年3月林野庁）

生産・造林事業におけるQGISデータセットの利用の手引き（令和6年3月林野庁）

QField エコシステムドキュメント～ハウツーガイド（令和6年10月15日閲覧）

林野庁（2023）収益性と災害リスクを考慮した森林ゾーニングの手引き

林野庁（2023）収穫調査における高精度GNSS活用の手引き

喜多耕一（2022）改訂版Ver.3.22対応 業務で使うQGIS Ver.3 完全使いこなしガイド
（一社）全国林業改良普及協会

国土地理院「【地図の利用手続パンフレット】国土地理院の地図は防災・減災をはじめ、あらゆる場面で利用できます」

国土地理院「わかりやすい平面直角座標系」